

2011 年度アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト実施報告

International Intercultural Mural Exchange [IIME]

ジャパンアートマイル

本年度も前年度に続き文部科学省の後援事業として「アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト」を日本の学校と海外の学校を繋いで実施した。アートマイルプロジェクトによる国際協働学習の手法はほぼ確立できた一方で、実際の学習活動の過程では様々な問題が発生した。今回はそうした問題についてプロジェクト終了後に日本の参加校にアンケート調査を行った。現在その結果を分析し、支援体制の改善等を検討しているところである。

1 国内・海外の参加校

【相手の国と地域】

18 の国と地域：アゼルバイジャン・アメリカ・アラブ首長国連合・イギリス・インドネシア・ウガンダ・ガーナ・カザフスタン・カナダ・カタール・韓国・台湾・パキスタン・パレスチナガザ・東エルサレム・メキシコ・ルワンダ・ロシア

【国内都道府県】

14 都道府県：北海道、宮城県、埼玉県、東京都、山梨県、石川県、愛知県、岐阜県、京都府、大阪府、兵庫県、香川県、長崎県、鹿児島県

【参加校/参加人数】

日本：51 学校(学級) 1,401 名 / 海外：51 学校(学級) 1,649 名 合計：3,050 名

【日本と海外のペア校一覧】

NO	国・地域名	日本参加校名	海外参加校名
1	Azerbaijan	宮城県仙台市立第二中学校	School Number 3
2		東京都多摩市立東愛宕中学校	School Lyceum 220
3	Canada	石川県七尾市立天神山小学校	Brussels Public School
4		石川県七尾市立天神山小学校	W.C. Little Elementary School
5		愛知県知多市立旭北小学校	Fieldcrest Elementary School
6		石川県金沢市立小坂小学校	Alcona Glen Elementary School
7	Ghana	兵庫県赤穂市英語教室小学生	Shakiriya Primary School
8	Indonesia	東京都立田柄高等学校	Ubud Senior High School
9		大阪府寝屋川市立友呂岐中学校	SMA Negeri 1 Blahbatuh
10		愛知県名古屋女子大学中学校	SMPN 26 Surabaya
11		石川県金沢市立額小学校	Perak Barat Elementary School
12		石川県金沢市立額小学校	SDN Babat Jerawat I/118
13		愛知県知多市立旭北小学校	SDSN Lebak Bulus 02
14		愛知県知多市立旭北小学校	SDN Pondok Labu 11 Jakarta

15		石川県金沢市立金石町小学校	Al-Muslim Elementary School
16		兵庫県赤穂市立高雄小学校	SDN Kandangan I
17		東京都江戸川区立一之江第二小学校	SDSN Cilincing 02 Pagi
18		北海道浦河町立堺町小学校	Hangtuah 10 Elementary School
19		埼玉県草加市立高砂小学校	SDK Santa Theresia I
20		岐阜県立岐阜聳学校	SMP LB Karya Mulia
21		石川県金沢市立木曳野小学校	Klampis Ngasem
22	Jerusalem	兵庫県赤穂市英語教室高校生	Beit Safafa High School
23	Kazakhstan	東京都中央区立月島第三小学校	School-gymnasium 10
24		兵庫県明石市立野々池中学校	School-gymnasium 10
25	Mexico	石川県金沢星稜大学	Prepa Tec Cumbres
26	Pakistan	東京都杉並区立杉森中学校	Sanjan Nagar Public Education
27		石川県金沢市立四十万小学校	Sanjan Nagar Public Education
28		東京都多摩市立南鶴牧小学校	Funkor Childart Center
29	Palestine Gaza	愛知県岡崎城西高等学校	Culture and Free Thought Association
30	Qatar	長崎県長崎市立尾戸小学校	Abdul Rahman Bin Jassim Independent
31		愛知県知多市立旭北小学校	Japan School of Doha
32	Russia	石川県金沢星稜大学	School1129, Educational Center 1471
33	Rwanda	山梨県山梨北中学校	G.S. Saint Bernadette Save
34	South Korea	宮城県仙台市立愛子小学校	Munbaek Elementary School
35		石川県金沢市立四十万小学校	Gaebong Elementary School
36	Taiwan	京都府木津川市立木津南中学校	Ruei-fong Junior High School
37		石川県金沢市立額小学校	Ze Hsin Elementary School
38		石川県金沢市立西小学校	Wen Ya Elementary School
39		石川県金沢市立西小学校	Wen Ya Elementary School
40		石川県金沢市立花園小学校	Jia-Nan Elementary School
41	Uganda	兵庫県赤穂市英語教室中校生	Namilyango College School
42	UA Emirates	石川県金沢市立四十万小学校	Dubai International Academy
43	UK	兵庫県明石市立野々池中学校	Bryn Hafren Comprehensive School
44		愛知県知多市立八幡中学校	Sidney Stringer Academy
45	USA	大阪府大阪私立羽衣学園高等学校	Bergen County Technical High School
46		兵庫県明石市立野々池中学校	Springside School
47		鹿児島県私立志学館学園中等部	Kelly Walsh High School
48		宮城県仙台市立愛子小学校	Van R. Butler Elementary School
49		香川県観音寺市立観音寺南小学校	Primitivo Garcia Elementary School
50		香川県観音寺市立観音寺南小学校	Garfield Elementary School
51		石川県金沢市立小坂小学校	ST. Pius X Elementary School

2 一年間の流れと各段階の協働学習

(1) 一年間の活動の流れ

4-5月	参加申込期間
6月	JAMより参加決定通知→海外校紹介
6-7月	事前学習（自己紹介・テーマ検討等）
8月	相手校と交流スケジュール作成
	電子フォーラム・TV会議のチェック
<相手校との協働学習スタート>	
9月	自己紹介・学校紹介・地域紹介
10月	テーマについて調査・協働学習
11月	構図と制作分担を相談、下絵の作成
12月	日本側の壁画制作 半分描いたキャンバスを相手に送付
1-2月	海外側の壁画制作 <完成！> →作品鑑賞後日本校に作品を送付
3月	作品鑑賞と年間活動のふりかえり

※完成作品は JAM が管理し、国内外で展示する。

(2) 段階を追って進む協働学習

日本校と海外校の各ペアは JAM が提供する電子フォーラムを使って共通のテーマで協働学習を進め、学習の成果を絵に表して一枚の壁画を共同制作する。

[Step1 : 出会い~自己紹介(9月)]

電子フォーラム上で自己紹介をする。言語は英語だが写真を多く載せると簡単な英語でもお互いの様子をリアルに伝えることができ、テレビ会議で自己紹介をすると親密感が増して良いスタートが切れる。学校や地域の紹介もすると自文化理解や異文化理解に繋げることができる。



[Step2 : テーマ学習(10月)]

相手と決めた学習のテーマについてそれぞれが調べたことをフォーラムに書き込んで共有する。テレビ会議で直接伝え合うとコミュニケーション力・プレゼン力・英語を使う力がつく。



[Step3 : 構図と制作分担の決定(11月)]

テーマについて話し合ったことをどのような絵に表すのか、構図・制作分担はどうするのかについて相手と相談して決める。

海外と共同制作

どうやって半分にするの？ どうやって一緒に完成させるの？

日本側が描くキャンパスの半分に絵を描いて相手の国へ送り、相手側がその半分に絵を描いて壁画を完成させます。どよみ構図にするか、どの部分を描くかという疑問は、テレビ会議や電子フォーラムなどインターネットを活用して行います。

絵の構図パターン

- 縦に半分
 - お互いの文化について教え合い、相手の文化や相手が大切にしているものを描きました。

大塚市立藤原町立南中学校 & フィジーのDufuya中学校
- 斜めに半分
 - 自分の国の自然の美しさ(日本は桜)と人々の暮らしを描きました。

石川県金沢市立西小中学校 & インドネシアのTendekari小学校
- 市松模様(に)半分
 - お互いの一年の伝統文化を教え合って、月毎の行事を交互に描きました。

石川県金沢市立高台小中学校 & 台湾の楓樹小学校
- 入り組んだ分け方
 - 環境と文化について教え合い、内閣閣に協力を果たして描きました。

兵庫県赤松市立牛久根中学校 & インドネシアのAMP21中学校
- その他のパターン
 - 空気にそれぞれの地域に語り継がれた香ばさを描きました。

石川県金沢市立西小中学校 & 台湾の日本小学校
 - 自然と環境について自分の地域と相手の地域の両方のことを探しました。

兵庫県神戸市立安西北小学校 & オーストラリアのDay Day小学校
 - 絵巻物に絵巻を全体に添え、境界線をばっさり切らないで一体感をだしました。

東京都立田崎高等学校 & インドネシアのKPN27中学校

[Step4 : 絵の制作(12月~2月)]

12月に日本側が先にキャンパスの半分に絵を描いて相手校に送る。相手校が1月~2月にあとの半分を描いて壁画を完成させる。



インドネシアからは14校が参加し、そのうち10校がスラバヤにある。発表会に参加した学校はそれぞれ自分たちの取り組みを発表し、作品を広げて絵に込めたメッセージを説明した。



[Step5 : 鑑賞とふりかえり(2月~3月)]

海外校で完成作品を展示・鑑賞してから作品を日本校に送り返す。3月に日本校で展示・鑑賞する。一年の学習をふり返る。

(3) インドネシアで作品展示と成果発表

インドネシアのスラバヤではアートマイルの参加校が集まり、展示と成果発表会が行われた。



3 成果

(1) 学習の成果物

アートマイルでは学習の成果を絵という目に見える形で表わす。遠く離れた国・地域の同世代と長期間にわたって学び合い、意見交換し、アイデアを出し合って一つのものを作り上げる協働学習・共同制作から教師も生徒も大きな成果が得られ、達成感も大きい。

【小学校の作品】

<台湾>



<アメリカ>



<カタール>



<カナダ>



【中学校の作品】

<カザフスタン>



【高校の作品】

<東エルサレム>



(2) 教師の感想から見える成果

すべての活動が終了した時点で教師に学習を振り返るアンケートをとった。アンケートの「感想」の記述からプロジェクトの成果を見る。

○アートマイルが他の国際交流、国際理解教育と違う大きな点は、①ゴールが明確であり、記録としても残せること ②交流相手先のことを生で感じ、知らなければならないというリアルな気持ちを持つことができることだと思う。

○これからの国際人としての日本人をそだてる教育プログラムとして、現時点で最高のプログラムだと思う。子ども達も鍛えられるが、なにより先生が一番鍛えられる。

○アートマイルの活動に参加することで児童は外国の文化に関心を持ち、日本や地域の文化についても関心をもることができた。

○スタートとゴールがはっきりとしており、子ども達に目的と目標をもたせて取り組ませることができる素晴らしい学習だと思う。

○協働学習・共同作業が目に見える結果として表れるので、取り組みやすく充実感を感じられるよい教材だ。

4 課題と対策

(1) アンケートから見えた課題

アンケートからそれぞれの学校が直面した問題と課題が見えた。

○相手校のスタートが遅かったために協働学習に十分な時間をかけられなかった。相手校が決まってから交流初期にかけて（7月～9月）相手の国・地域との連絡がしっかりつくように現地のサポーターに学校をプッシュしてほしい。最初の出だしが肝心だと感じた。

○相手校の反応が少なかった。相手校との意識の温度差によって、満足するかどうかが大きく左右される。

○卒業までに絵が返ってこなかったために完成作品を見た感動で最期を締めくくることができなかった。3月までに必ず返ってくるようにしてほしい。

○相手の国・地域とつながるためには英語が必要不可欠だと感じた。英語が得意でないので相手と連絡をとるのに非常に苦労した。英語が不得手でもつながれる手段があればもっと取り組みやすいと感じた。

○本校は小規模校のため、参加生徒や制作時間の確保、この活動の校内への浸透が課題である。

○また参加したいのは山々ですが、実費で参加できるだけの予算がつかないのが現状である。

(2) 対策

参加校の報告書とアンケート調査の結果を踏

まえ、より充実した国際協働学習となるよう2012年度の支援体制を見直すこととした。

① 9月によりスタートを切るために

参加校の決定をこれまでの7月から6月に早め、7月～8月に相手校の担当教師と十分に連絡を取り合って9月のスタート時点では教師同士が信頼関係を築けるようにする。

② 相手校とスケジュールの共有を図る

半年間の協働学習に見通しを持って取り組めるように相手と一緒に自分たちの学習スケジュールを共同作成する。

③ 卒業式に完成作品が間に合うように

カナダとインドネシアの数校が「完成作品を速達航空便のEMSで日本に送る」という約束を守らず船便で送ってきたために日本校の卒業式に作品が間に合わなかった。海外の参加校が守らなければならない約束事を徹底するようJAMが積極的に指導する。

④ 英語の文例集で先生をバックアップ

JAMがアートマイルでよく使う英語の文例集を作成し、いつでも利用できるようにフォーラムに掲載する。

⑤ 学習にかかる実費は参加校で予算化を

アートマイルを総合的な学習のカリキュラムとして取り組むなど継続したプログラムとして実施できるように参加校での予算化を支援する。海外への輸送費については、今年度は8つ国・地域を対象に国際物流UPSの支援を受けているが、次年度も継続した支援と支援国・地域の拡大をUPSに要請する。

JAMは、次年度に以上の改善を行い、アートマイルが子どもたちにとってより有意義な国際協働学習となるように学校支援を行う。